

センター長の杉浦さん



ほっとサロンのようす



ほっとサロンは葉桜会館で毎月第2・4木曜の10時～12時に予約不要・無料で実施しています。福祉センターの利用は自治会事務所（☎875-7805）までご連絡ください。



緑川会長は建築士の経験を生かし、会館の地下に毛布などの防災グッズが入るスペースを作りました。下山口には町内会の他にも自主防災組織が様々な活動をし、防災に力を入れています。

地域に住む人間が、本気でまちを考える。

「一色第5町内会に住んでみたい、または住んでいて良かったと思ってほしい」と角田会長は語ります。

御用邸からしおさい公園、県立近代美術館へと続く海岸線。世界に誇る「葉山らしさ」があるここに、まちづくりを考える会があります。

以前、集合住宅の建設計画が出た際、1年以上の話し合いの結果、当初の予定とは異なる日本古来の建物になり、地域の景観を損なわなかったという例がありました。また、県立近代美術館のステンレスフェンス設置について、その前にいけがきを作り、代わりに町内会で清掃や枝葉の手入れをすると提案して実現しました（右の写真）。

昔から住んでいた人も新しく住んだ人も「この地域が好きで、誇りに思う気持ち」が強いからこそ出来る本気の取り組みです。

発見！町内会の取り組み

一色第5町内会 × まちづくり

一色第5町内会には、11年前に発足した「まちづくりを考える会」があります。この地域での土地開発計画が町に提出された場合、開発業者はこの会に説明し、町の景観にそぐわないようなものには、会から「向きや角度、高さなどのお願い」をします。



まちづくりを考える会の会員は20人以上！設計図を読める人がいるなど、専門知識を持った人材が多いのも町内会の自慢です。



町内会のかかわら版を作る千葉さんと平井さん。地域の特色や歴史を紹介するガイドブックの準備号として毎月発行しています。

▲一色海岸へ続く小道は人気の写真スポットに（写真の右側が県立近代美術館のいけがき）

葉桜自治会 × 福祉

葉桜は地理的に周りから独立しているため、「住民同士が協力して助け合うことが大切だ」という思いから平成13年に福祉センターが立ち上げられました。

主な依頼は草刈りや庭の手入れ、高齢者の話し相手など家事支援に関することで、有償ボランティアによるサービスです（30分400円）。



(写真左から) 葉桜福祉センターのコーディネーター市倉妙子さん、支援者の工藤智美さん、10年前から犬の散歩を依頼しているという加藤千秋さんとその愛犬のメイちゃん

独立した地域だからこそ、住民同士で助け合う。

杉浦センター長は「一般人なので専門的な依頼には対応できないが、困りごとがあれば相談してほしい」と話します。その他センターでは子どもを預けて遊ばせているそばでお茶が飲める「ほっとサロン」や一時保育も人気です。

犬の散歩を依頼する加藤さんからは「親が高齢になり、私も仕事で帰るのが遅いので依頼しています。散歩以外にも留守の時に草木への水やりなどもしてくれて本当に助かる。」と話します。支援者の工藤さんは「メイちゃんの散歩を通じて近所の人とも仲良くなれたのが嬉しい！」と地域での交流について話してくれました。

東日本大震災で避難所を開設、「ここは毛布も人もあたたかい」と言われた。

5年ほど前、「不要な毛布を寄附してください」と回覧板で呼びかけました。呼びかけによって集まったのは40枚。ほとんどが未使用でしたがクリーニングをし、災害に備えて地下へ置いていたそうです。その直後に東日本大震災が起こり、多くの毛布は避難所となった下山口会館で大活躍することになりました。

「寒い日だったので個人でストーブやテレビを持ち寄るように伝えたことで、会館はあたたかく、情報収集もでき

ました。また、停電でも発電機を備えていたので心配ありませんでした」と緑川会長は話します。

その後、避難時に屋外や冷たい床にも座れるよう、ウレタンマット50枚を会館内に備蓄。会長は「物理的なあたたかさはもちろん、日頃からあいさつや声かけを心がけ、いざという時に安心して避難できるような「人のあたたかさ」も大切にしたい」と今後も地域の防災力向上に力を注ぐことを語ってくれました。



▲下山口地区では、今年新たに防災倉庫を設置し、そこにも発電機を備えます

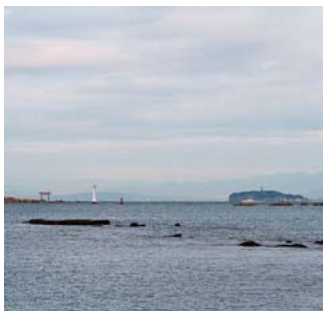
下山口町内会 × 防災

下山口では、海に近い家もあれば山の上の家もあり、地震による津波や台風による土砂災害など、様々な自然災害に気をつけなくてはならないという地域の特徴があります。

真名瀬町内会 × 健康



景色の良い場所で体操し、
心も身体も健康になろう。



晴れの日には目の前に富士山が見られます

真名瀬町内会で朝のラジオ体操が始まったのは昨年7月。子どもたちが夏休みの間、規則正しい生活が送れるようにと始まりました。しかし、集まったのは子どもだけ

でなく、その保護者や高齢者まで様々でした。色々な世代が交流する機会にもなるので夏が終わっても続けたいという要望があり、約450日間休まずに行われています。体操する場所は真名瀬海岸（雨の日は会館）。加藤会長は「色々旅したけど真名瀬の景色は世界一。そんな場所で毎日体操が出来る幸せをみんなで共有することができれば」と今後も続けていく方針を語ってくれました。

多い時は50人近くが参加することもあります。参加者の中には、体操で腰痛が治ったという人も！子どもたちは体操後に会長からスタンプをもらい、みんなで参加回数を競っていました。



木古庭・上山口町内会 × 伝統



企業や大学と協力して、
大切なふるさとを継承する。



若い世代との交流は町内会の活気にもつながります

今年5月、昭和30年代頃の木古庭・上山口地域を描いた「葉山ふるさと絵屏風」が完成しました。取組みのきっかけになったのは、町の里山を所有する大和ハウス工業が町

内会に声をかけたことからです。町内会はもちろん、地域の職人や関東学院大学の学生など総勢1500人が関わわり、3年がかりの大きなプロジェクトになりました。上山口町内会の倉林会長は「丁寧に細かいコミュニケーションをとることで木古庭町内会との信頼関係が築けた。これからも絵屏風を活用して若い世代に文化を継承することを協力して取り組みたい」と意気込みを語りました。

今年10月には、姉妹都市の草津町で開催された文化祭にも出展され、町を代表する作品になりました。町役場2階の政策課窓口にもレプリカが飾ってあるので、ぜひご覧ください。



One for all , all for one.

町の仲間たちから町内会へのメッセージ



心をつなげる
縁の下の力持ち

町社会福祉協議会
山下 淳さん

葉山の町内会は高齢者等の日中活動の場づくりや、ちょっと不安がある方への見守り活動など、積極的な福祉活動をされています。これからも「住民の視点で早くニーズに気付くこと」を心がけてもらい、手助けが必要な場合にはいつでも私たちに頼ってもらえるよう連携を強めたいと思います。



町内会は
地域の先生です

南郷中学校
野口 司 校長

南郷中学校では地域連携を目的とし、FGCという地域学習を13年続けています。1年生では町内会に出向き、地域が抱える課題やそれに対する取組みを学びます。中学生は部活動などで地域の行事に参加することが難しいですが、このように地域の方と触れあえる機会を今後も大切にしていきたいです。



共助を担う
大切なパートナー

町防災安全課
課長 福本 昌巳

町の総合防災訓練以外にも、町内会独自の訓練を年1回以上お願いしています。訓練を通し、みんなが顔見知りになることが共助の一步です。自然災害は必ず起こるもの。怖がるのではなく、その対策を個人で、そして町内会で備え、町と一緒に「災害に強いまちづくり」にこれからも取り組みましょう。



協働の主役は
町内会の皆さんです

町政策課協働推進係
新倉、大前、廣瀬

地域のことを知り尽くしているところ、そして地域の課題にすぐ気づき、自分たちで解決するという熱意にいつも驚かされます。これからも、さらに住みやすい町にするため一緒に協力しましょう。私たちも、これからは皆さんの地域内での細かなコミュニケーションを参考に、顔の見える行政を目指します！

最後に

今年の秋、ラグビーのワールドカップでは、日本代表が一丸となり、南アフリカを破った試合が「史上最大の番狂わせ」と言われました。そのラグビーの精神が「One for all, for one.」です。

ラグビーの球はどちらに転がるか予測が付きません。チームの15人が不規則に転がるボールを追い、一丸となってゴールラインを目指します。

地域での生活も地震、台風などの自然災害、高齢化や病気による生活上の支障など、必ずしも平穏な暮らしを続けていけるとは限りません。こんな時、周囲のサポートがいかに大切な、なかなか普段の生活の中では考える機会がないでしょう。地域社会でのチームプレイ、それを可能にするのが町内会です。

一人ひとりが地域の一員として出来ること、町内会が皆さんのために出来ることは何でしょうか。